



井の頭自然文化園開園100周年カウントダウン新聞

井の頭 古祥寺 鷹

23号 2015年7・8月号

2015年(平成27年)7月1日

●編集・発行
いのきちさん編集委員会
編集長 川井信良
東京都三鷹市上連雀 1-12-17
株式会社文伸 発行
電話 0422-60-2211
FAX 0422-60-2200
メール inokichi@bun-shin.co.jp

●協力
東京都西部公園緑地事務所
東京都井の頭自然文化園
井の頭恩賜公園100周年実行委員会
NPO 法人みたか都市観光協会
一般社団法人武蔵野市観光機構

●制作支援
株式会社文伸 / ふんしん出版

井の頭恩賜公園
開園100周年まで

あと1年10ヶ月

最終回

INFORMATION 2015年7月~8月

井の頭自然文化園

●怪談スタンプラリー

「動物園怪談画劇 ~井之頭百物語・参~」

井の頭自然文化園にまつわる、様々な創作怪談を読みながら園内を回することで、動物や施設の特徴を知ることができます。普段と違った動物園を感じてみませんか?

日時 平成27年7月18日(土)~8月30日(日) 各日9時30分~
ラリーブック配布場所 ●動物園(本園) 正門先広場 ●水生園(分園) 七井門先



●ユニクロ吉祥寺店に、井の頭自然文化園がやってくる!

7月1日より、4階に井の頭自然文化園のキッズスペースが登場します。モルモットのぬいぐるみやパズル等、動物園の魅力を感じる楽しいコーナーです。お買い物の際に、是非おいで下さい。



*イメージです

詳しくはホームページをご覧ください。http://www.tokyo-zoo.net/zoo/ino/index.html

井の頭恩賜公園

【ネイチャー☆プログラム】次世代を担う子供たちや公園を訪れる人たちに、わかりやすく楽しく「自然の仕組み」を学び遊んでもらうプログラムです。

- あおぞら実験室(井の頭池付近) 7月5日(日)、8月2日(日)、9月6日(日)
- グリーンバード(井の頭池付近) 7月12日(日)、7月26日(日)、8月9日(日)
8月23日(日)、9月13日(日)、9月27日(日)
- どんぐり広場(御殿山広場) 7月9日(木)、9月3日(木)
- ツリー☆マジック(第二公園) 7月5日(日)、8月1日(土)、8月2日(日)
9月5日(土)
- ツリートレック(第二公園) 7月12日(日)、8月9日(日)、9月13日(日)

詳しくはホームページをご覧ください。http://www.i-np.jp/index.html に載せます。

●野外劇フェスタ(風煉ダンス「泥リア」)(文化交流広場)

9月19日(土)~28日(月)

井の頭かんさつ会

- 第123回「変形園」7月19日(日) 10:00~12:00
- 第124回「植物と動物の夜の不思議」8月8日(土) 18:30~20:30

事前申し込みが必要です。詳細や申し込み方法はHP <http://www.kansatsukai.net/> に載せます。

募集 井の頭公園の古い写真を集めています

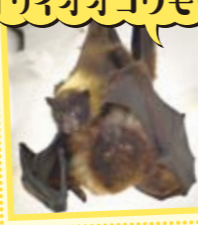
2017年の井の頭恩賜公園開園100周年を記念して、井の頭公園の今昔を伝える写真集を刊行する予定です。井の頭公園の古い写真をお持ちの方で、写真集に掲載しても良い方はご一報願います。

なお、お借りした写真は、スキャン後、速やかにご返却いたします。また、謝礼として、完成した写真集を謹呈いたします。

お問い合わせ ふんしん出版 ☎0422-60-2211 (担当:宮川)
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀 1-12-17

井の頭自然文化園の動物たちと飼育員 その4

オリオオコウモリ と 田口真隆さん



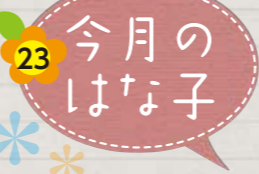
オオコウモリ舎を見上げると、天井から逆さに吊り下がるオリオオコウモリが目に入ります。広げると70~80cmにもなる黒い翼を、腕組みのように折り畳んだ間からは、茶色のふさふさの体毛と、つぶらな瞳、突き出た鼻のぞきま。

夜行性のため、動き出すのは閉園間際の夕方から。フルーツバットの異名の通り、バナナやパパイヤ、リンゴや蒸かしイモが好物で、エサが運ばれると逆さのまま歩み寄ってきます。片足でぶら下がり、もう一方の足でエサを口まで運びます。「かじって、エキスだけ吸って、固形は吐き出すんですよ」と田口真隆さん。オリオオコウモリは飛ぶのは上手だけれど、飛び上がるのが苦手なため、体を重くしないための工夫なのだとか。

沖縄だけに生息する亜種で、今年生まれた2頭を含めて、井の頭には7頭が暮らします。もし近づいてくる1頭がいたら、それはオリオ君。赤ちゃんのころに保護され、人の手で育てられたオリオ君は、「自分のことをコウモリだと思ってないみたい。愛嬌を振りまくんです」。田口さんが作業中でもおかまいなしで、服を甘噛みしたり、帽子を取っていったり、首をくすぐったりと、ちょっかいを出し続けるそうです。

小田原 濤 (おだわら みお) 編集者・ライター。フィールドは多摩。三鷹市在住。

運動場の鐘を鳴らすのは?



アジアゾウの「はな子」の運動場には、ホースが置いてあったり、大きな角材が置いてあったりと、「はな子」の興味関心に応じて、遊んでもらえるような道具が置いてあります。特に、午前中の早い時間に遊んでいることが多い気がします。

そんな運動場の正面奥の木に鐘が下がっているのをご存知でしょうか。ヒモの劣化等の事情により、ヒモを外して、さわれない状態が続いていました。今回、復活しました。

ヒモを付けたのは、2015年5月2日。久しぶりにヒモが付いたので、きつとすぐに鐘を鳴らしてくれるのではないかと期待して待っていましたが、なかなか鳴らしません。なんと、鳴らしたのは、5月9日のことでした。

その後は、全く興味が無いのか、鳴らしたのを確認していません。もし鳴らしているのを見つけたら、教えてください。

(井の頭自然文化園 教育普及係 大橋直哉)



その23 井の頭公園の生き物たち クサガメ

井の頭かんさつ会 田中 利秋 (たなか としあき) 井の頭かんさつ会代表。毎月自然観察会を開催。池の外来魚問題にも取り組む。



微妙な立場

甲羅に盛り上がった縦筋が3本あること、首筋に黄緑色の複雑な模様があることなどがクサガメの特徴です。ただし、老熟したオスは全身が真っ黒で、メスほど大きくなりません。上の写真のクサガメは、ひょうたん池に住み着いているメスです。甲羅にかつての生息調査で明けられた孔があるので個体識別が可能です。この135番さん、ひょうたん池に設置しているアメリカザリガニ捕獲ワナに頻繁に入ります。ワナの中のザリガニを食べるためです。人間に捕まってもすぐに放してくれると分かっている、繰り返し入るのです。漢字で書く

彼らは前回の繁殖でヒナを1羽孵したものの、残る2個の卵は孵りませんでした。そして、そのヒナの誕生からわずか16日ほど後に次の卵を1個産んだのです。現在、彼らは一人っ子の世話と抱卵を同時にこなしています。カイツブリがこれほど短い間隔で次の卵を産んだ例を私は知りません。忙しいせいでしょうか。抱卵している時間も長く、そんな状態ではたして卵が孵るのか気になります。この号が出るころには結果が分かっているでしょう。



井の頭かんさつ会 田中 利秋 <http://homepage2.nifty.com/tnt-lab/>

と「臭亀」で、危険を感じると四肢の付け根から臭いにおいを出すのですが、135番さんは今や捕まってもまったくにおいを出しません。安心しきっているのです。

昨年秋、ワナに入った大切な在来種まで食べてしまうのに困り果て、ほかの池とは仕切られている弁天池に放したことがあります。ところが、翌々日には再びひょうたん池のワナに入っていました。では神田川源流の堰は上がれるのかと水門橋の直下に放してみたら、雨で水量がとても多い日だったため、下流へと流されていってしまい、二度と戻って来ませんでした。しかし、今年の4月にザリガニワナの設置を再開したら、さっそく135番さんが入っていたので驚きました。

とても賢く、ファンも多いクサガメですが、じつは今、微妙な立場にあります。長い間日本古来のカメだと考えられていたのに、最近の文献調査と遺伝子解析で、江戸時代後期に朝鮮半島から連れてこられた外来種であることが判明したのです。関東地方には1970年代に中国から輸入された系統も生息しているそうです。外来生物法では、明治以降に日本に持ち込まれた生物を外来生物としているため、江戸時代ならぎりぎりセーフです。しかし、何より困るのは在来種のニホンイシガメと交雑することで、イシガメを守りたい場所ではクサガメを除去する取り組みが始まっています。



黒化したオス

23

変則

「楽園はよみがえるか!」



カイツブリは、得意の潜水で小魚やエビを捕まえる。小さな水鳥です。池や川にカップルで縄張りを作って暮らし、子育てをします。

連載給本 カワセミのミドリリ巻
やつと育ち始めたヒナをアオダイショウに襲われ、悲しみに暮れるミドリリをセミソウは井の頭池 誘いました。ミドリリを慰める姿を見ていたカイツブリのヒナが、「ボクの親は子育てでもせずにもう次を産むんだ。カワセミも頑張れ!」と言って水に潜りました。ミドリリとセミソウは、思わず顔を見合わせ頷きました。

せのうさちこ 1975年 盛岡市で生まれる。小6で三鷹へ転校。アニメ動画から絵本に進む。三鷹市在住。瀬能けい子さんは母親。

絵せのうさちこ 文瀬能けい子